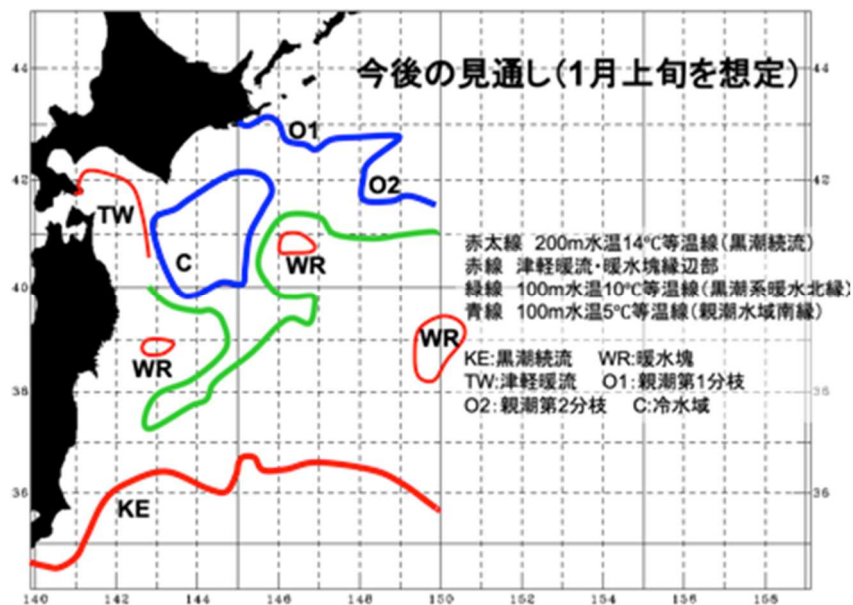


平成30年度 第4回 東北海区海況予報

— 別表の水産関係機関が検討し国立研究開発法人水産研究・教育機構
東北区水産研究所、北海道区水産研究所がとりまとめた結果 —

今後の見通し(平成30年12月下旬～平成31年1月)のポイント

- ・ 近海の黒潮続流の北限位置は平年並み～やや北偏で推移する。
- ・ 親潮第1分枝の張り出しはやや北偏～極めて北偏で推移する。
- ・ 釧路沖から襟裳岬沖にのびる親潮第1分枝は切離され、親潮第1分枝に連なる冷水域となる。



問い合わせ先

国立研究開発法人 水産研究・教育機構 東北区水産研究所

担当：業務推進部 藤井、樽井

資源環境部 栗田、長谷川、田中

電話：022-365-1191、ファックス：022-367-1250

当資料のホームページ掲載先URL

<http://www.fra.affrc.go.jp/pressrelease>

平成30年度東北海区海況予報 第4号

《今後の見通し（2018年12月下旬～2019年1月）》

近海の黒潮続流の北限位置は平年並み～やや北偏で推移し、親潮第1分枝の張り出しはやや北偏～極めて北偏で推移する。釧路沖から襟裳岬沖に親潮第1分枝に連なる冷水塊ができる。トドヶ崎沖の暖水塊は消滅し、金華山沖の暖水塊は停滞する。釧路沖から襟裳岬沖にのびる親潮第1分枝は切離され、親潮第1分枝に連なる冷水域となる。

《海況の経過（2018年9月～2018年11月）の特徴》

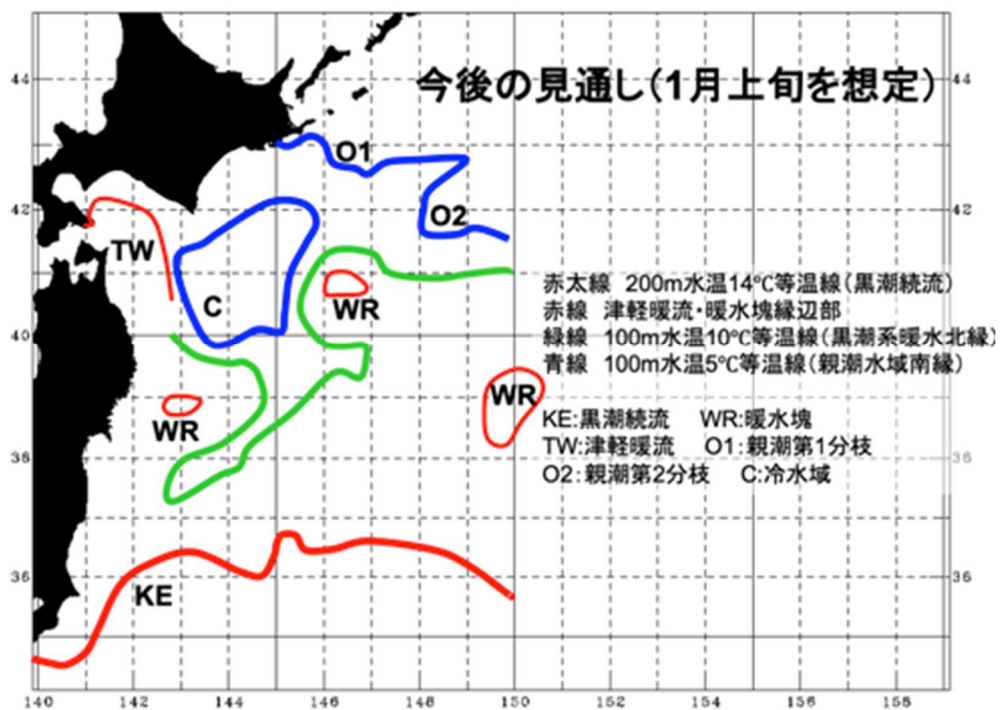
近海の黒潮続流の北限位置は平年並み～やや北偏で推移した。親潮第1分枝の張り出しはかなり南偏～やや北偏で推移した。トドヶ崎沖に暖水塊ができ東に移動した。金華山沖の暖水塊は停滞した。

《現況（2018年12月上旬）の特徴》

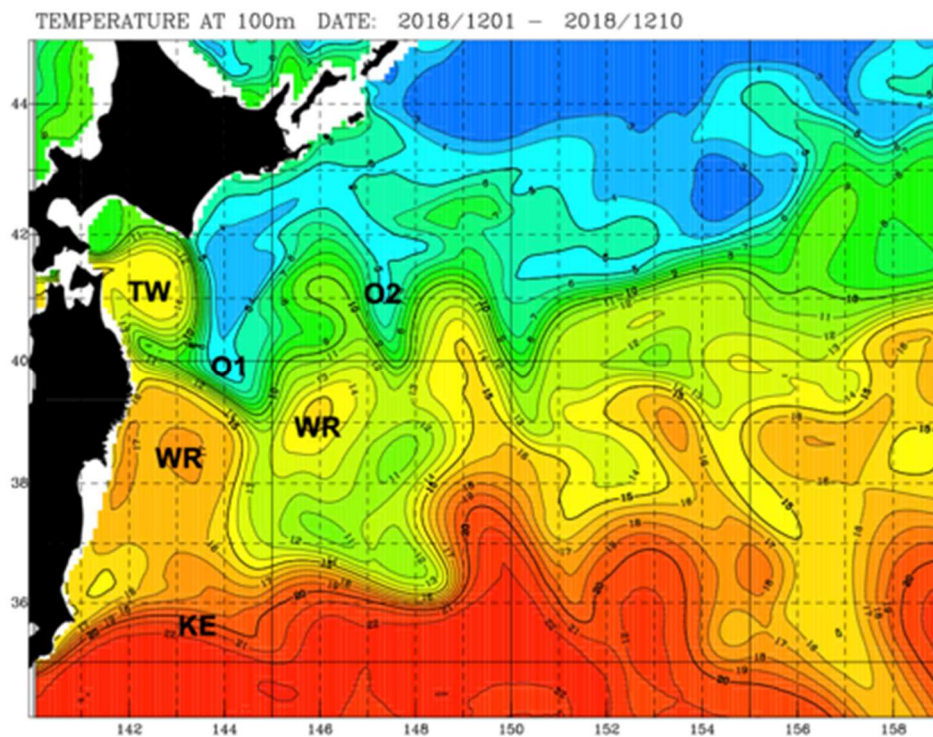
近海の黒潮続流の北限位置は平年並み、親潮第1分枝の張り出しは極めて南偏である。暖水塊がトドヶ崎沖と金華山沖にある。

（注）この海況予報は、国立研究開発法人水産研究・教育機構により開発され、2012年5月より運用を開始したFRA-ROMSシステムを用いた。FRA-ROMSは、我が国周辺太平洋域の海況経過を再解析し、2ヶ月先までの海況を予測する海況予測システムである。

1月上旬予測水温分布図



12月上旬現況水温分布図（100m深）



図中の記号はそれぞれO1が親潮第1分枝、O2が親潮第2分枝、KEが黒潮続流、TWが津軽暖流、WRが暖水塊を表している。

参 画 機 関

<p>地方独立行政法人 青森県産業技術センター 水産総合研究所</p> <p>岩手県水産技術センター</p> <p>宮城県水産技術総合センター</p> <p>福島県水産海洋研究センター</p> <p>茨城県水産試験場</p>	<p>国立研究開発法人 水産研究・教育機構 北海道区水産研究所</p> <p>(取りまとめ機関)</p> <p>国立研究開発法人水産研究・教育機構 東北区水産研究所</p>
--	--